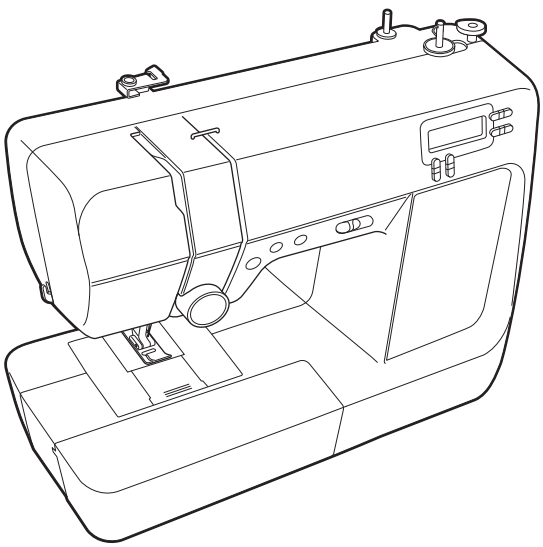
brother

取扱説明書

コンピューターミシン

CPN50シリーズ



目次

安全にお使いいただくために 2
警告表示について 3
各部の名称 4
主要部 4
針と押え部分 4
操作スイッチ 4
補助テーブル 4
付属品／別売品 5
付属品 5
別売品 5
ミシンを使う 5
電源の入れ方 6
フットコントローラー（別売）を使用する 6
操作パネルと操作キー 6
設定を変更する 6
下糸の準備／上糸通し 7
下糸を巻く／セットする 7
上糸を通す 10
下糸を引き出す 11
布地と糸の種類による針の使い分け 12
針の交換 13
正しい針の見分け方 13
針の交換 13
押えの交換 14
押えを交換する 14
押えホルダーを取り外す 14
基本のぬい方 14
模様を選択する 14
ぬい目の長さ／振り幅を調節する 15
基本的なぬい方 15
返しぬい／止めぬいをする 16
自動で返しぬい／止めぬいをする 16
糸調子を調節する 16
実用ぬい 17
布端を始末する 17
すそ上げをする 17
ボタン穴かがり 19
ファスナーつけ 20
かんどめ 21
ブラザーのサポートサイトのご案内（製品マニュアルのダウンロードについて） 22
お手入れのしかた 22
注油に関して 22
ミシンを保管するときのご注意 22
本体表面のお手入れ 22
かまの掃除 22
困ったとき 23
よくあるご相談 23
上糸がつる 23
布裏で糸がからまる 23
糸調子が合わない 24
布がミシンに入り込んでとれなくなった 24
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった 26
こんなときは 26
エラーメッセージ 28
電子音について 28
仕様 29
索引 30

●ご使用になる前に必ず本書をお読みになり、正しくお使いください。

●本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

人への危害や損害を未然に防ぐために、必ずお守りください。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。

⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれのある」内容です。
⚠ 注意	「傷害を負うおそれや物的損害が発生するおそれのある」内容です。

■ お守りいただく内容を区分して説明しています。

⃠	「してはいけない」内容です。
❗	「実行しなければならない」内容です。

⚠ 警告

火災・感電・故障 をさけるために

❗ **一般家庭用電源 AC100V の電源で使う**

❗ **次の場合は電源を切り、プラグを抜く**

- ミシンの使用後や、そばを離れるとき
- 使用中に停電したとき
- 接触不良などで正常に動作しないとき
- 雷が鳴りはじめたとき

❗ 異常・故障時は…
すぐにプラグを抜き、お買い上げの販売店へご連絡を！
（またはお客様相談室（ミシン119番）へ）

異常などの例：

- 煙が出た、異臭や異常音がする
- ミシンを落とした
- 電源コードやプラグの破損
- 本体に水が入った

⚠ 注意

けが・針折れなど をさけるために

針や周辺部品

⃠ **縫製中は次のことをしない**

- 針やプーリー、てんびんなど、動いている部品に手を近づける
- 針の下などに指を入れる
- 布地を無理に引っ張ったり、押したりする

曲がった針は使わない

リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かない
（すべったときにけがのおそれがあります）

❗ **針や押えの交換時は、電源を切る**
（誤ってスイッチを押すと、ミシンが作動するおそれがあります）

上糸や下糸などに関する操作は、本書に従って正しく行う
（誤ると、糸がらみなどが発生し、針の折れや曲がりのおそれがあります）

けが・故障 をさけるために

持ち運び

⃠ **急激または、不用意に持ち上げない**
（ミシン本体の重さは約5kgあります。）

❗ **ハンドルを持って運ぶ**
（他の部分では、こわれたり、すべって落とすおそれがあります）

⚠注意

火災・発熱・感電 をさけるために

電源コードやプラグ

●次のようなことをしない
- たこ足配線
- 濡れた手でのプラグの抜き差し
- 電源を切らずにプラグを抜く
- ゆるんだコンセントに差し込む
- 電源コードを引っ張って抜く

●電源コードは､次のような扱いをしない
- 無理に曲げる
- たばねたまま使う
- ねじる
- 重い物を載せる　など

●プラグは根元まで確実に差し込む

火災・感電・けが・故障・事故など をさけるために

設置・保管場所

●次の場所に設置や保管をしない
- 著しく高温や低温になる（使用環境温度は0～40℃）
- 急激に温度が変化する
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い（火のついたたばこやろうそく、アイロン、ストーブなど）
- スプレー（布用スプレーなど）を使う部屋
- 湿気や湯気が多い
- 屋外や、直射日光が当たる
- ほこりや油煙が多い
- 不安定な場所（ぐらつく、傾くなど）

●換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりをためない

●換気口をふさがず、壁から30cm離す

取り扱い

●換気口や内部にドライバーなどを差し込んだり、異物を入れない
（高電圧部に触れるおそれがあります）

●修理や分解、改造は行わない

●フットコントローラーの上に物を置かない

●付属品、別売品は純正品を使う
ブラザー純正品または推奨品以外の部品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。
※その他のものが必ず不具合を起こすわけではありません。

火災・感電・けが・故障・事故など をさけるために

取り扱い

●本書に記載の整備は、プラグを抜いてから行う

●本機が入っていた袋は、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄する
（かぶって遊ぶと、窒息のおそれがあります）

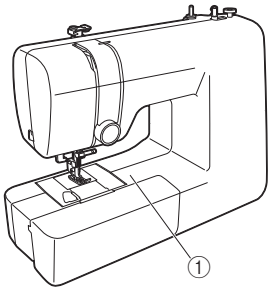
- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
  This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
  職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告表示について

ミシン本体には下記の警告が表示されています。警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。
また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。

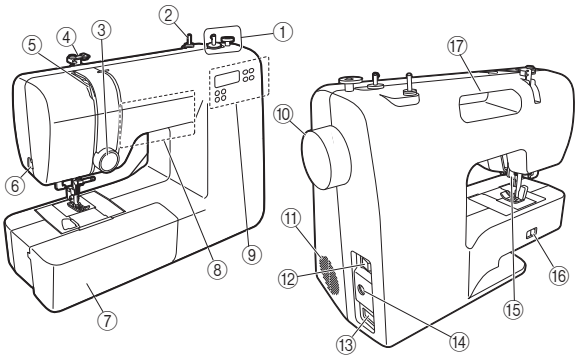
①





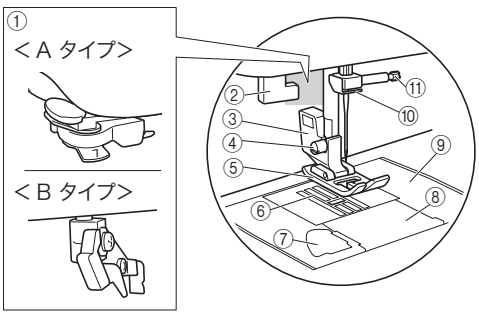
各部の名称

主要部



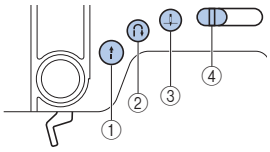
① 下糸巻き装置（P.8）
② 糸たて棒（P.7）
③ 糸調子ダイヤル（P.16）
④ 糸案内（P.7、10）
⑤ てんびん（P.10）
⑥ 糸切り（P.16）
⑦ 付属品収納スペース付き補助テーブル（P.4）
⑧ 操作スイッチ（P.4）
⑨ 操作パネル（P.6）
⑩ プーリー
手動で針を上げ下げするときに手前に回します。
⑪ 換気口
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがないでください。
⑫ 電源スイッチ（P.6）
⑬ 電源ジャック（P.6）
⑭ フットコントローラージャック（P.6）
⑮ 押えレバー（P.8、10、15）
⑯ ドロップレバー
送り歯を下げるときと、元に戻すときに使用します。
キルト押え（別売）を使用してフリーモーションキルトをする場合、送り歯を下げてください。
：送り歯が上がっている状態です。
：送り歯が下がっている状態です。
⑰ ハンドル
ミシンを持ち運ぶときに使用します。

針と押え部分



① 糸通し装置（P.10）
② ボタン穴かがりレバー（P.20）
③ 押えホルダー（P.14）
④ 押えホルダーのネジ（P.14）
⑤ 押え
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
⑥ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
⑦ 下糸クイック（P.11）
⑧ 針板ふた（P.8）
⑨ 針板
まっすぐにぬうための目盛りが付いています。
⑩ 針棒糸かけ（P.10）
⑪ 針のとめネジ

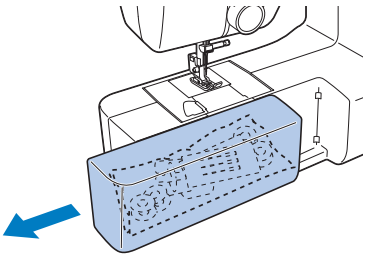
操作スイッチ



① スタート／ストップスイッチ
このスイッチを押すと、ミシンをスタートまたは停止します。
② 返しぬいスイッチ （P.16）
このスイッチを押すと、模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。
③ 針上下スイッチ
このスイッチを押すと、針の位置の上下が切り替わります。2 回押すと、1 針ぬいができます。
④ スピードコントロールレバー
このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。スピードコントロールレバーで設定した速度が、フットコントローラー（別売）を踏み込んだときの最高速度になります。

補助テーブル

補助テーブルの内側に、押えやボビン、針などの付属品を収納できるスペースがあります。



補助テーブルを左側へ引いて、取り外します。

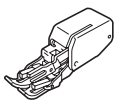
お願い
・付属品は、ジッパー付きのビニール袋などに入れてから補助テーブルに収納してください。袋などに入れずに収納すると、付属品が収納スペースから落ちて紛失したり、破損したりすることがあります。

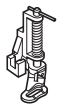
付属品／別売品

付属品

箱を開けたら、付属品が揃っていることを確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
付属品については、別紙「付属品」を参照してください。

別売品

1. 
ウォーキングフット
（モデル名：F033）

2. 
キルト押え
（モデル名：F005N）

3. 
ピーシング押え
（モデル名：F001N）

4. 
キルター
（モデル名：F016N）

5. 
はとめ穴パンチ
（XG7791-001）

6. 
ミシンブラシ
（X59476-051）

7. 
フットコントローラー
（モデル名：FC32291
型式：MODEL T）

8. 
ボビン
（モデル名：
B051（5 個入り））
（モデル名：
B101（10 個入り））

9. 
ワイドテーブル
（モデル名：WT17AP）

お知らせ

・別売品・部品についてはお買い上げの販売店、またはお客様相談室（ミシン 119 番）にお問い合わせください。必ず本機に対応した別売品・部品を使用してください。

ミシンを使う

⚠ 警告

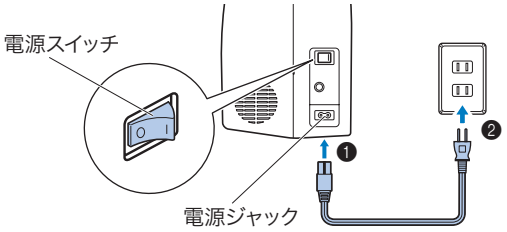
・一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
・次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
  ・ミシンのそばを離れるとき
  ・ミシンを使用したあと
  ・使用中に停電したとき
  ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき
  ・雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注意

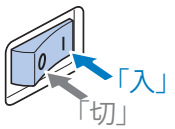
・延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
・濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
・電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
・電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
・長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源の入れ方

1 本体右側の電源ジャックに電源コードを差し込み、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



2 電源を入れます。



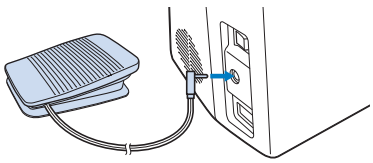
ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（I側）を押して「入」にします。電源が入り、手もとライトと液晶画面が点灯します。

ミシンの電源を切るには、電源スイッチの左側（O側）を押して「切」にします。

▶ 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。

フットコントローラー（別売）を使用する

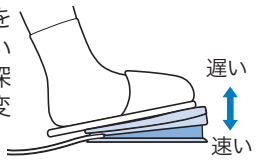
ミシンのフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



⚠ 注 意

- フットコントローラーを接続するときは、誤ってミシンがスタートしないよう、必ず電源を切ってください。
- このミシンには以下のモデルのフットコントローラーを使用してください。
  MODEL T

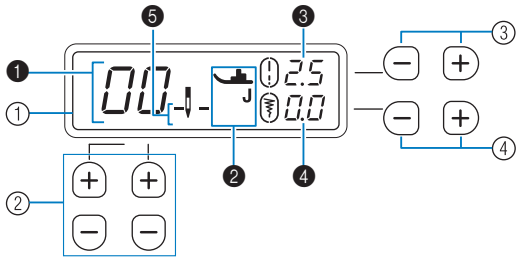
フットコントローラーをゆっくり踏み込み、ぬい始めます。踏み込みの深さによってぬう速度が変わります。



お願い

- フットコントローラーを接続しているときは、↑（スタート／ストップスイッチ）は使用できません。

操作パネルと操作キー



① **液晶画面**
選択した模様（❶）、使用する押え（❷）、ぬい目の長さ（mm）（❸）、模様の振り幅（mm）（❹）、針停止位置（❺）が表示されます。

② **模様選択キー（P.14）**
模様選択キーを押して、使用する模様の番号を選択します。

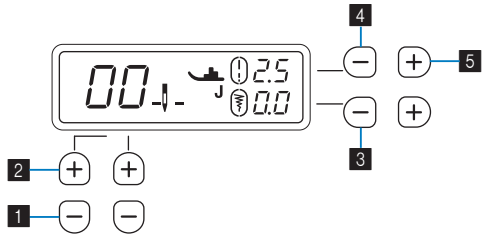
③ **ぬい目の長さ調節キー（P.15）**
ぬい目の長さを調節するときに押します。

④ **振り幅調節キー（P.15）**
模様の振り幅を調節するときに押します。

設定を変更する

以下の設定を変更することができます。電源を切っても変更した設定は保持されます。

No.	設定
1	針停止位置
2	ミシン起動時の針位置（左基線／中基線）
3	電子音 ON ／ OFF
4	最高縫製速度
5	自動返しぬい／止めぬい



1 針停止位置の切り替え

模様をぬい終えたときの針停止位置を上または下（針が布地に刺さった状態）に設定できます。
（初期設定：下）

1 電源を切ります。

2 1 を押したまま電源を入れます。

3 電源が入ったら 1 を離します。
▶ 針停止位置が切り替わります。

: 針停止位置下　　: 針停止位置上

2 ミシン起動時の針位置の切り替え

ミシンの電源を入れたときに選択される直線模様の針位置を、左基線 または 中基線に設定できます。

（初期設定：左基線）

1 電源を切ります。
2 2 を押したまま電源を入れます。
3 電源が入ったら 2 を離します。
▶ ミシン起動時の針位置が切り替わります。

選択中の模様は、液晶画面上の模様番号で確認できます。

3 電子音 ON ／ OFF の切り替え

電子音の ON ／ OFF を変更できます。

（初期設定：ON）

1 電源を切ります。
2 3 を押したまま電源を入れます。
3 電源が入ったら 3 を離します。
▶ 電子音の設定が切り替わります。

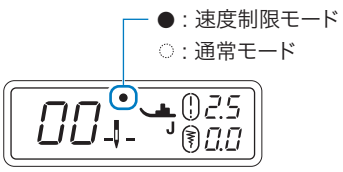
4 最高縫製速度の切り替え

スピードコントロールレバーで調節できる速度の範囲を、通常モードまたは速度制限モードに設定できます。

（初期設定：通常モード）

速度制限モードでは、最高縫製速度が通常モードと比べて遅くなります。

1 電源を切ります。
2 4 を押したまま電源を入れます。
3 電源が入ったら 4 を離します。
▶ 最高縫製速度が切り替わります。

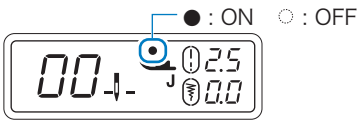


5 自動返しぬい／止めぬい機能の設定

ぬい始めとぬい終わりに、自動で返しぬいまたは止めぬいをするように設定できます。

（初期設定：OFF）

1 電源を切る
2 5 を押したまま電源を入れます。
3 電源が入ったら 5 を離します。
▶ 自動返しぬい／止めぬいの設定が切り替わります。



▶ 詳細は、「自動で返しぬい／止めぬいをする」（P.16）を参照してください。

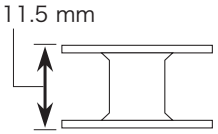
下糸の準備／上糸通し

下糸を巻く／セットする

⚠ 注 意

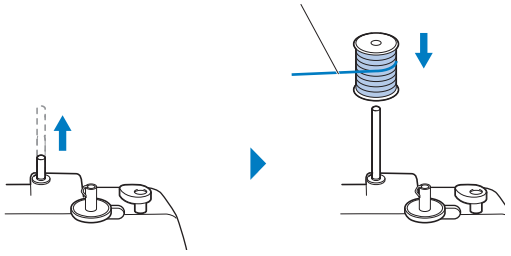
- 上糸や下糸をセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、（スタート／ストップスイッチ）（または、フットコントローラー）が押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

- 付属のボビンは本機純正品です。必ず純正ボビンをご使用ください。ボビンの高さは 11.5mm です。



1 糸たて棒を最後まで引き出し、糸こまを糸たて棒に差し込みます。

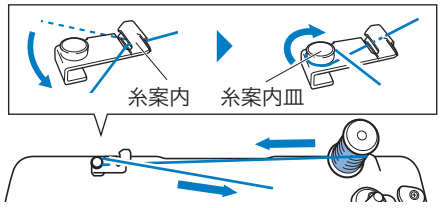
糸の向きが図と同じになるように、糸こまをセットします。



⚠ 注 意

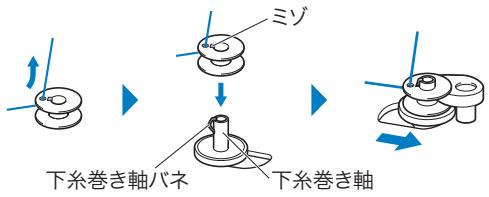
- 糸こまが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。

2 糸を糸案内にかけ、その後糸案内皿にかけます。



3 糸をボビンの穴に通します。次にボビンを下糸巻き軸にセットし、右側へ押します。

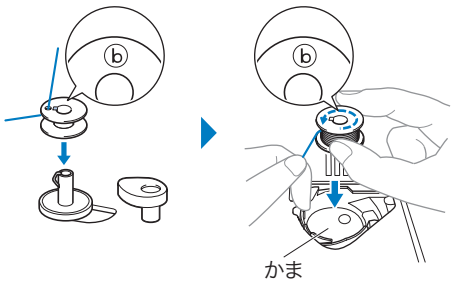
＊ ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置を合わせてセットします。



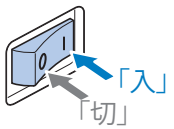
お知らせ

・ ボビンの向きを確認しておくと、後の手順で参考になります。同じ向きでボビンをかまにセットすることで、正しい巻き方向で下糸がセットされます。

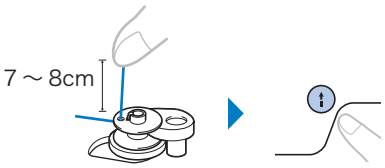
本機付属ボビンの片面には「ⓑ」マークが刻印されていますので、参考にご使用ください。



4 電源を入れます。



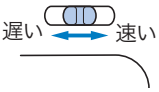
5 糸の端を持ちながらミシンをスタートさせ、持っている糸が巻き糸で保持されるまで数回巻きます。



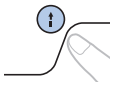
6 持っている糸が巻き糸で保持されたら、ミシンを停止し、ボビンの穴から出ている余分な糸を切ります。



7 スピードコントロールレバーで下糸を巻く速度を調節します。右に動かすと速く、左に動かすと遅くなります。



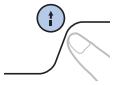
8 ⏶（スタート／ストップスイッチ）を押して下糸巻きを開始します。



お知らせ

・ ナイロン透明糸などの伸縮性のある糸は、遅い速度で巻くことをおすすめします。

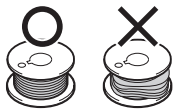
9 ボビンの回転がゆっくりになったら、⏶（スタート／ストップスイッチ）を押して下糸巻きを停止します。



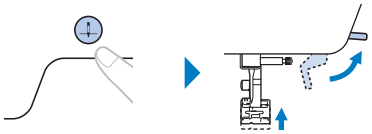
10 糸を切り、軸を左へ戻し、ボビンを取り外します。

⚠ 注意

・ 下糸が正しく巻かれていることを確認してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。

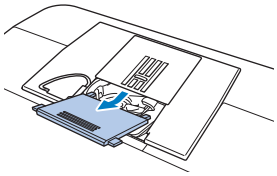


11 ⏷（針上下スイッチ）を押して針を上げ、押えレバーで押えを上げます。

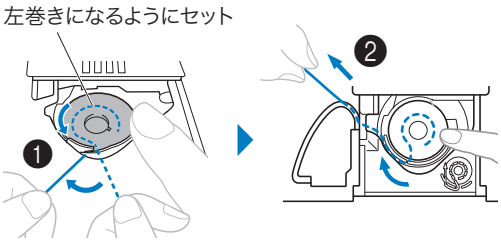


12 電源を切ります。

13 針板ふたを取り外します。



14 ボビンをかまにセットし、糸の端を持って、ボビンを軽く押えたまま、以下のように糸をツメにかけます（❶）。その後、糸を軽く引っ張ります（❷）。

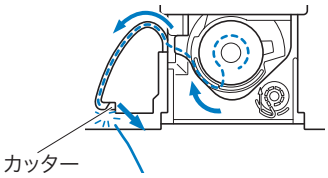


＊ 針板に示されている矢印の向きを参考に、糸をかけてください。

お知らせ

・ この図の ❶ のように、糸をツメにかけてから糸を通し、❷ の位置で糸を軽く引っ張ることで、内かまの板ばねの間に糸が入り、ぬうときに下糸に適切な張力を加えることができるようになります。

15 ボビンを軽く押さえたまま、ミゾに糸を通します。最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。

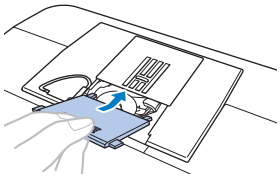


▶ 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、「下糸を引き出す」（P.11）を参照してください。

⚠ 注 意

・ ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

16 針板ふたを元に戻します。

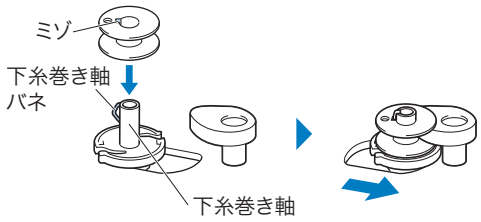


■ カッター付きモデルをご使用の場合

1 「下糸を巻く／セットする」の 1 ～ 2（P.7）を参照して、糸案内皿まで糸をかけます。

2 ボビンを下糸巻き軸にセットし、右側へ押します。

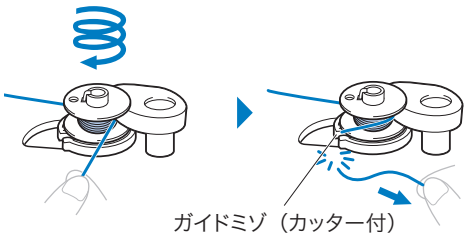
＊ ボビンのミゾと下糸巻き軸バネの位置が合うようにします。



3

糸をボビンに時計回りに５～６回巻き付けます。

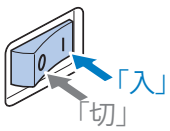
ボビン受け座のガイドミゾにひっかけ、糸の端を切ります。



⚠ 注 意

・ 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

4 電源を入れます。



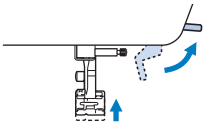
5 「下糸を巻く／セットする」の 7 ～ 16（P.8）を参照して、下糸の残りを巻き、かまにセットします。

上糸を通す

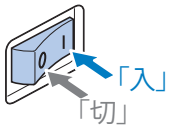
⚠ 注 意

- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。
- 針と糸は、「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.12）を参照して、適切な組み合わせで使用してください。

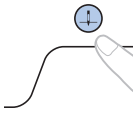
1 押えレバーを上げます。



2 電源を入れます。



3 ↓（針上下スイッチ）を押して針を上げます。

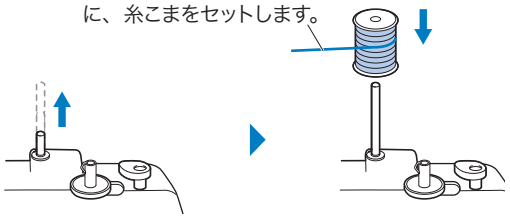


1 回または 2 回押します。

4 電源を切ります。

5 糸たて棒を最後まで引き出し、糸こまを糸たて棒に差し込みます。

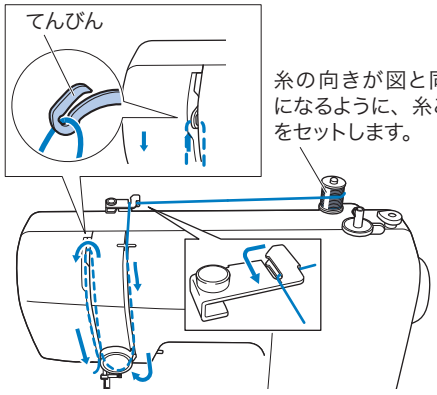
糸の向きが図と同じになるように、糸こまをセットします。



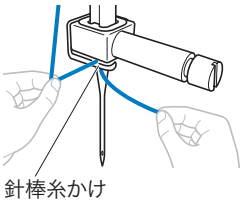
6 下図の矢印に従い、ミゾにそって糸を通します。

＊ ミシン本体に糸を通す順番が書かれていますので、参考にご使用ください。

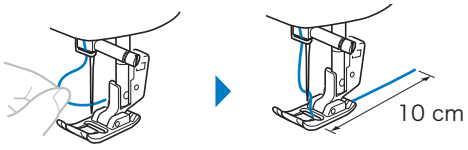
＊ 糸が確実にてんびんにかかっていることを確認してください。



7 針棒糸かけに糸をかけます。



8 糸を針穴の手前から向こう側に通した後、押えの下に通して後ろ側に 10cm ほど引き出します。



■ 糸通し装置を使用して針穴に糸を通す場合

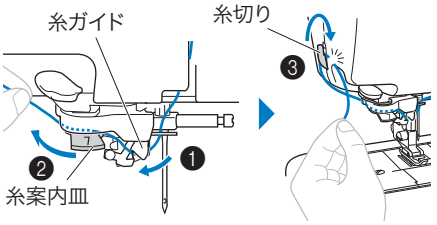
⚠ 注 意

- 糸通し装置は、11 ～ 16 番の家庭用ミシン針のみに使用できます。ナイロン透明糸を使用するときは、14 ～ 16 番のミシン針のみ使用できます。
- 特殊な糸や、ウィングニードルのような特殊な針を取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置が使用できない場合は、手で針に糸を通してください。その場合、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

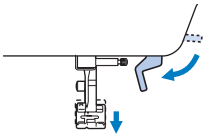
1 「上糸を通す」の **1** ～ **7** を参照して、針棒糸かけまで糸をかけます。

2 ＜A タイプ＞

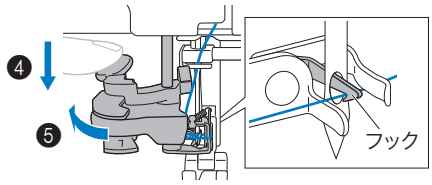
a) 針棒糸かけに通した糸を、糸ガイドのミゾにかけ（❶）、次に糸案内皿のすき間にしっかりとはさみ込みます（❷）。その後、ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります（❸）。



b) 押えレバーを下げます。



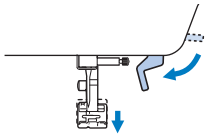
c) 糸通しレバーをいっぱいまで下げ（❹）、次に止まるまでゆっくりと後ろに回します（❺）。



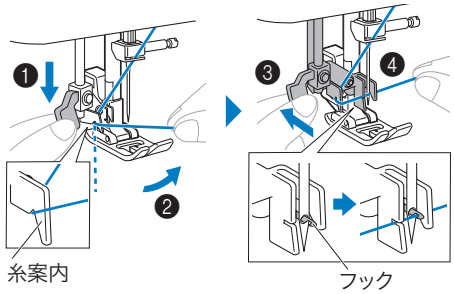
＊ 糸がフックにかかったことを確認してください。

＜B タイプ＞

a) 押えレバーを下げます。

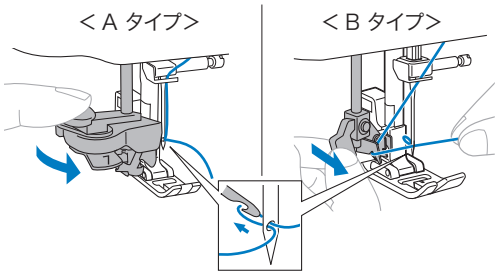


b) 糸通しレバーをいっぱいまで下げ（❶）、糸案内に糸をかけます（❷）。糸通しレバーをゆっくりと後ろに押します（❸）。針穴からフックが出ていることを確認してから、フックの下を糸が通るように、糸をかけます（❹）。



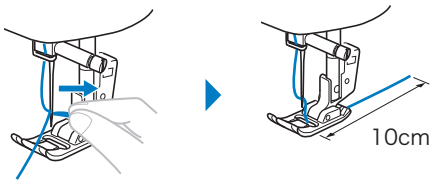
＊ 糸がフックにかかったことを確認してください。

3 糸通しレバーをゆっくりと前に戻し、次にゆっくりと上に戻します。



4 押えレバーを上げます。

5 針穴を通った糸の輪を引っ張り、下の図のように上糸を押えの下に通します。



下糸を引き出す

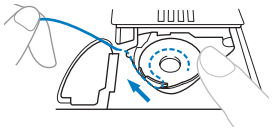
お願い

・ギャザーをぬうときや、ぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておいてください。

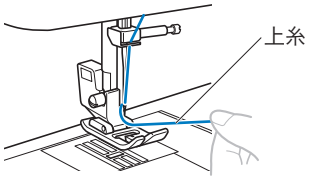
1 「上糸を通す」（P.10）を参照して、針に糸を通します。

2 「下糸を巻く／セットする」の **11** ～ **13**（P.8）を参照して、ボビンをかまにセットします。

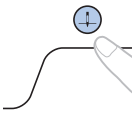
3 下糸をミゾにそって通します。このとき、カッターで糸を切らないでください。



4 上糸の端を軽く持ちます。

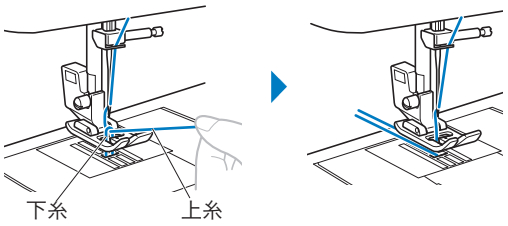


5 上糸の端を持ちながら、針が上がった状態で（針上下スイッチ）を 2 回押して、針を下げてから上げます。



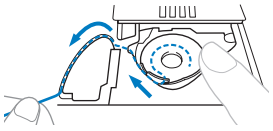
2 回押します。

6 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。 その後、上糸と下糸を押えの下に通して、後ろ側へ 10cm ほど引き出します。



■ 下糸クイックを使用する場合

下糸を引き出さずに、すぐにぬい始めることができます。（P.9）



布地と糸の種類による針の使い分け

・このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HA×1 シリーズの太さ 9 ～ 16 番）　例）HA×1、HA×1SP など
・このミシンで使用できる糸：30 ～ 90 番
　＊ 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
・布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。
　- 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
　- ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。
　　針交換の目安は「正しい針の見分け方」（P.13）を参照してください。

＊ 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
＊ 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（P.15）

数字が小さいほど太い糸です。 細い← 90 ～ 60 ～ 30 →太い	数字が大きいほど太い針です。 細い←9～11～14～16→太い	布地に適した模様を選択し、ぬい目の長さを調節してください。

布の種類・特徴		ミシン糸 種類	ミシン糸 太さ	針の太さ	ぬい目の長さ mm
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ボイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地 など	ポリエステル糸	60 ～ 90	9 ～ 11	細かいぬい目（1.8 ～ 2.5）
		綿糸、絹糸	50 ～ 80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンブレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル糸	60 ～ 90	11 ～ 14	普通のぬい目（2.0 ～ 3.0）
		綿糸、絹糸	50 ～ 60		
厚地	デニム（ 12 オンス以上）、帆布 など	ポリエステル糸、綿糸	30	16	粗いぬい目（2.5 ～ 4.0）
	デニム（ 12 オンス以上）、帆布、ツィード、コーデュロイ、ベロア、キルティング、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル糸	60	14 ～ 16	
		綿糸、絹糸	30 ～ 50		
のびる布地（ニット素材など）	ジャージー、トリコット、T シャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金）11 ～ 14	布地の厚みに応じて設定 ＊ 詳細は「ぬい方ガイド」（http://s.brother/cmkah/）を参照してください。
ステッチをかける場合 ＊ 20 番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。糸通し装置の故障や、針折れの原因となります。		ポリエステル糸	30	14 ～ 16	布地の厚みに応じて設定
			50 ～ 60	11 ～ 14	

■ ナイロン透明糸
布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用します。

■ 飾り模様をぬうとき（針・糸）
針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ニット用針（金色）11 番、厚地のときは家庭用ミシン針 14 番を使用します。糸は 50 ～ 60 番を使用します。

⚠ 注 意

・ 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因となります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

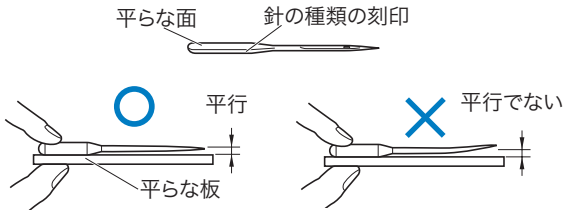
針の交換

⚠ 注 意

- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをするおそれがあります。
- 針は必ず家庭用ミシン針（HA ×1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、ミシンが故障する原因となります。

正しい針の見分け方

針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



お願い

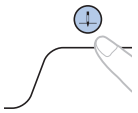
- 針は消耗品です。次の事例にあてはまるときは、針を交換して下さい。
  - 針が布地に刺さる際に通常と異なる音（パツパツやバスッバスッなど）が出るとき（針先が折れていたりつぶれていたりする可能性があります。）
  - 目とびが起きるとき（針が曲がっている可能性があります。）
  - 目安として、洋服などを 1 作品ぬい終えたとき

針の交換

⚠ 注 意

- 針を交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、(スタート／ストップスイッチ）（またはフットコントローラー）が押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

1 (針上下スイッチ）を押して針を上げます。



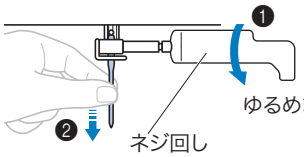
1 回または 2 回押します。

2 押えを取り外します。(P.14)

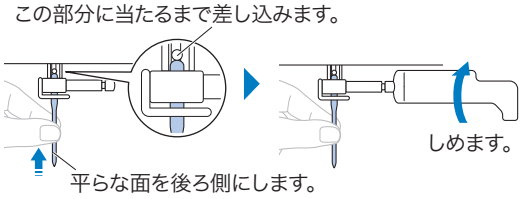
3 電源を切ります。

4 ミシン内部に針が落ちるのを防ぐために、針板の上に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。

5 針を取り外します。



6 新しい針を取り付けます。



7 押えを取り付けます。(P.14)

⚠ 注 意

- 手順に従って正しく針を取り付けてください。正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

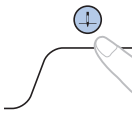
押えの交換

⚠ 注 意

- 押えを交換するときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、(スタート／ストップスイッチ)（またはフットコントローラー）が押されるとミシンが作動してけがの原因となります。
- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 押えは必ず純正品を使用してください。

押えを交換する

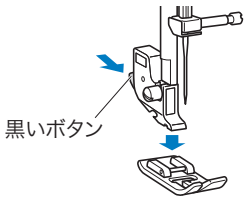
1 (針上下スイッチ）を押して針を上げます。



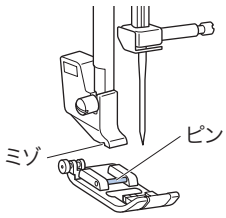
1 回または 2 回押します。

2 電源を切り、押えレバーを上げます。

3 押えホルダーの黒いボタンを押し、押えを取り外します。



4 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。



5 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。

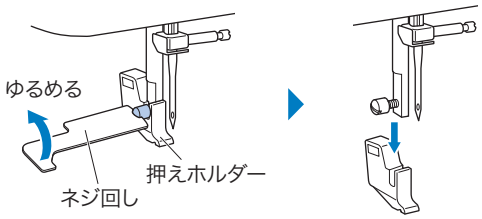
お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。

押えホルダーを取り外す

ウォーキングフット * やキルト押え * などの押えホルダーを使用しない押えを取り付けるときは、押えホルダーを取り外します。

*：別売品



お願い

- 押えホルダーを取り付けるときは、押えホルダーのミゾを押えホルダーのネジに合わせてください。押えホルダーのネジは、確実にしめてください。

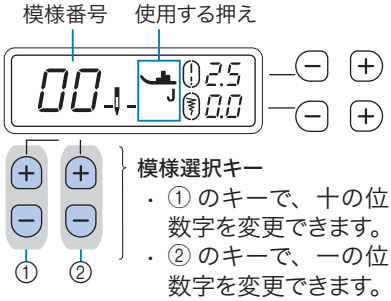
基本のぬい方

⚠ 注 意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押したりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。折れやすく、けがの原因となります。
- 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

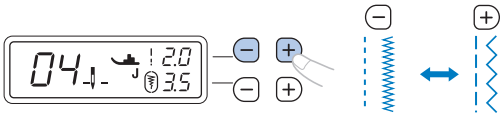
模様を選択する

模様選択キーを押して模様番号を選択します。

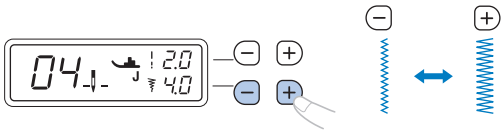


ぬい目の長さ／振り幅を調節する

・ぬい目の長さ調節キーの、⊕または⊖を押すと、ぬい目の長さをあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。



・振り幅調節キーの⊕または⊖を押すと、模様の振り幅を広くしたりせまくしたりすることができます。



お知らせ

・直線模様または３重ぬいを選択した場合は、振り幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅を広くすると針は右に移動し、せまくすると左に移動します。

お願い

・ぬい目の長さ／振り幅が最大値、最小値に達すると、それ以上変更できなくなります。

・ぬい目の長さ／振り幅を標準値から変更すると、ⓘまたは⑨の〇が消えます。

・振り幅を調整できない模様を選択した場合は、液晶画面内の⑨の右側に “---” が表示されます。

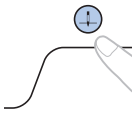
⚠ 注意

- **振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。**
- **ぬい目がつまる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態でぬい続けると、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。**

基本的なぬい方

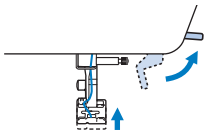
ぬい始める前に、あらかじめしつけをしておいてください。

1 **ⓘ（針上下スイッチ）を押して針を上げます。**

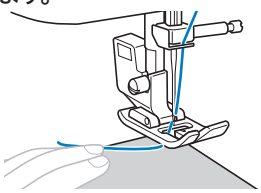


１回または２回押します。

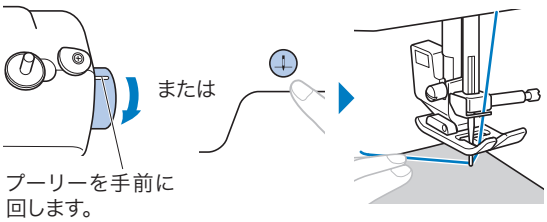
2 **押えレバーを上げます。**



3 **押えの下に布地を置き、左手で布地と糸端を押えます。**

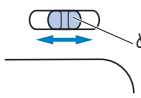


4 **ぬい始めの位置に針を刺します。**



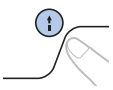
5 **押えレバーを下げます。**

6

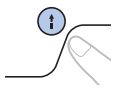


7 **ⓘ（スタート／ストップスイッチ）を押してぬい始めます。**

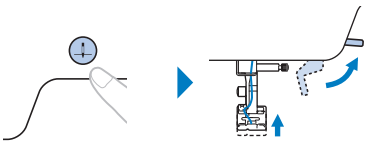
＊ 布地に軽く手を添えます。



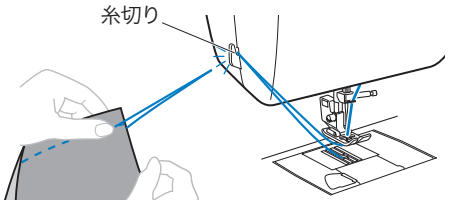
8 ぬい終わったら、（スタート／ストップスイッチ）を押してミシンを停止します。



9 （針上下スイッチ）を押して針を上げ、押えレバーで押えを上げます。



10 布地を取り出し、糸を切ります。



返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

止めぬいは同じ場所で 3 ～ 5 針ぬいます。返しぬいは反対方向にぬいます。

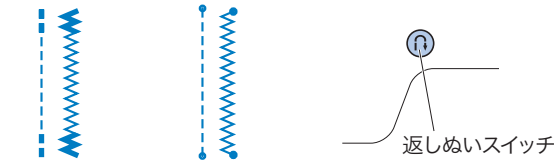
（返しぬいスイッチ）を押している間、選択した模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

お知らせ

・返しぬい模様を選択したときに（返しぬいスイッチ）を押すと、返しぬいをします。その他の模様を選択したときに（返しぬいスイッチ）を押すと、止めぬいをします。



返しぬい模様



返しぬい　　止めぬい

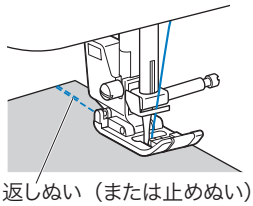
自動で返しぬい／止めぬいをする

ぬい始める前に、自動返しぬい／止めぬいを設定しておくと、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。

1 自動返しぬい／止めぬいを設定します。（P.7）

2 模様を選択します。

3 ぬい始めの位置に布をセットし、（スタート／ストップスイッチ）を押してぬい始めます。



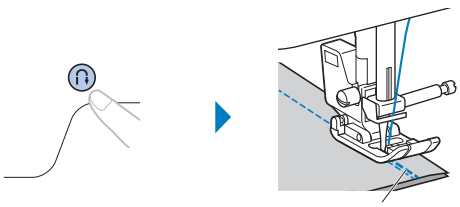
返しぬい（または止めぬい）

▶ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

お知らせ

・ぬっている途中で（スタート／ストップスイッチ）を押すと、縫製を一時停止／再開できます。

4 ぬい終わりの位置まできたら、（返しぬいスイッチ）を押します。



返しぬい（または止めぬい）

▶ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい終わります。

糸調子を調節する

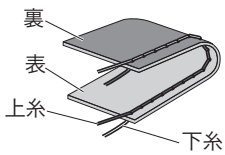
ぬい目の仕上がりは、糸調子によって左右されます。布や糸を変えたときは、糸調子の調節を行ってください。

お願い

・作品をぬい始める前に、実際に使用する布地のはぎれと糸で試しぬいをしてください。

■ **正しい糸調子**

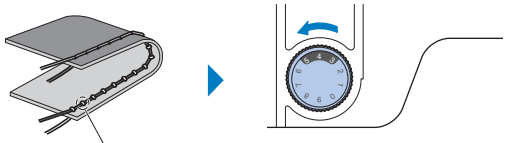
上糸と下糸が布地のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。



■ 上糸が強いとき

お願い

・ 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットをやり直してください。「下糸を巻く／セットする」（P.7）を参照してください。



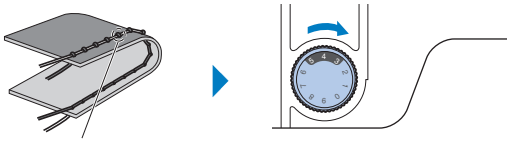
上糸と下糸の重なりが表にできます。

解決方法
上糸調子を弱くします（小さい数字に変更します）。

■ 上糸が弱いとき

お願い

・ 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなることがあります。上糸が弱いときは、上糸通しをやり直してください。「上糸を通す」（P.10）を参照してください。



上糸と下糸の重なりが裏にできます。

解決方法
上糸調子を強くします（大きい数字に変更します）。

お願い

・ 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わないことがあります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

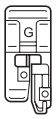
実用ぬい

模様の詳細については、下記サイトの「模様早見表」をご確認ください。
(http://s.brother/cmkah/)

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。

1 たち目かがり押え< G >を取り付けます。



2 模様を選択します。

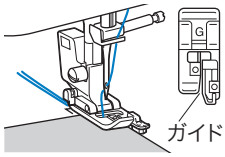


＊ 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

注意

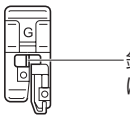
・ たち目かがり押え< G >を使用するときは、必ずたち目かがり押え< G >用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

3 押えのガイドに布端を当て、押えレバーを下げます。



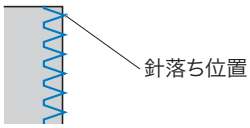
ガイド

4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



針が当たらないように注意してください。

5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



針落ち位置

注意

・ ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
・ 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えレバーを上げると、押えが破損するおそれがあります。

6 ぬい終わったら、ミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

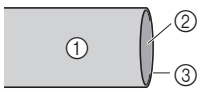
すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

お知らせ

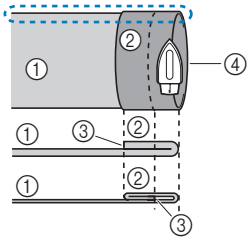
・ 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

1 すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



① 裏
② 表
③ 布端

2 できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



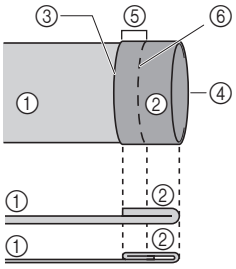
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線

<厚い布地>

<普通地>

<横から ⬭ を見た図>

3 布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



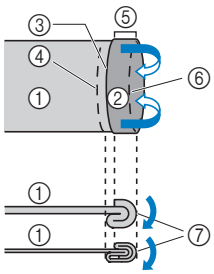
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5 mm
⑥ しつけ

<厚い布地>

<普通地>

<横から見た図>

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



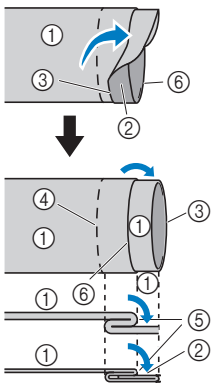
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ 5 mm
⑥ しつけ
⑦ しつけの位置

<厚い布地>

<普通地>

<横から見た図>

5 布端を開いて裏返します。



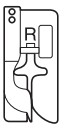
① 裏
② 表
③ 布端
④ できあがり線
⑤ しつけの位置
⑥ しつけ

<厚い布地>

<普通地>

<横から見た図>

6 まつりぬい押えを取り付けます。



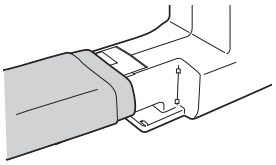
7 模様を選択します。



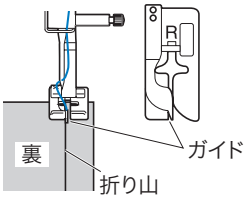
＊ 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

8 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

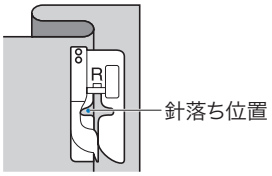
9 下図のように布地をアームにセットし、布地をを回転させられることを確認して、ミシンをスタートさせます。



10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えレバーを下げます。

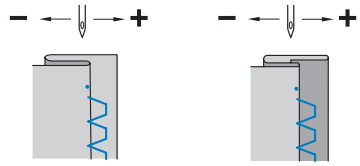


11 針の位置を調整します。(P.15)



針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を調整します。

＊ 振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。



<厚い布地>　<普通地>

お知らせ

・ 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりません。

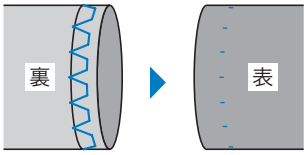
12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

13 ぬい終わったら、ミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

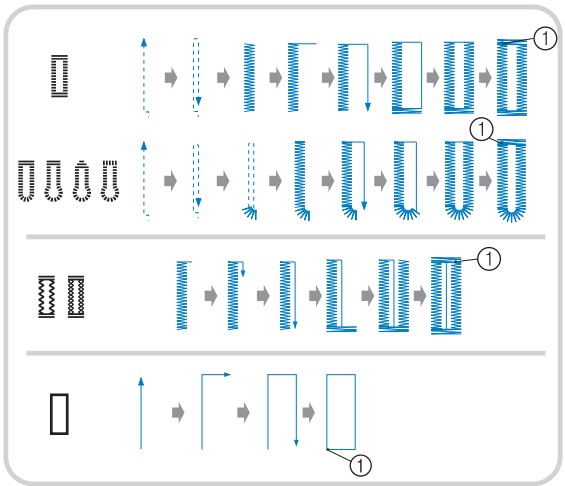
・ ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に返します。



ボタン穴かがり

「ボタンの直径＋厚み」が 28mm までのボタンの穴を作ることができます。
ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。

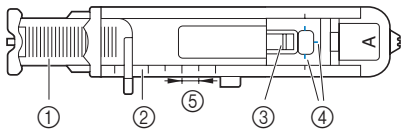


① 止めぬい

＊ 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え< A >の各部の名称は以下のとおりです。

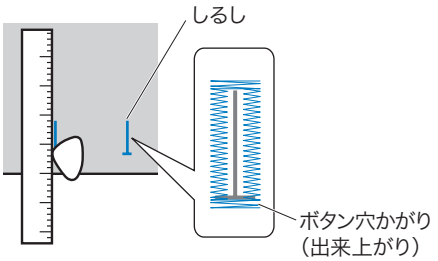
① 台皿
② 押えスケール
③ ピン
④ しるし
⑤ 5 mm



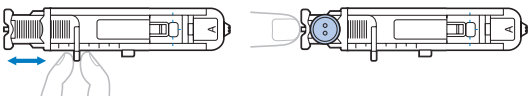
お願い

・ ボタン穴かがりをする前に、ぬい目の長さと振り幅を確認するために、実際に使用する布のはぎれを使用して試しぬいをしてください。

1 布地の穴かがりをする位置に、ボタン穴の長さのしるしをつけます。

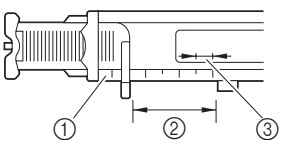


2 ボタン穴かがり押え< A >の台皿を引き出し、ボタン穴に通すボタンをのせてはさみます。



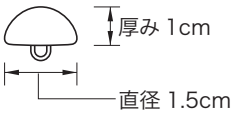
＊ **ボタンが台皿にのらない場合**

押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールの目盛りをボタンの直径 + 厚みの寸法に合わせてください。



① 押えスケール
② でき上がり寸法（直径 + 厚み）
③ 5 mm

例：直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、2.5cm の目盛りに合うように、台皿を引き出します。



▶ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

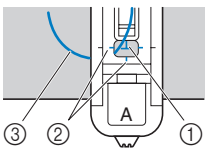
3 ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。
ボタン穴かがり押え< A >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

4 模様を選択します。



＊ 搭載されている模様は、モデルによって異なります。お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

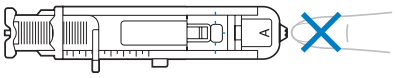
5 ボタン穴かがり押えの赤いしるし両側と布地のしるし手前側を合わせ、押えレバーを下げます。



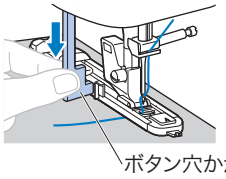
① 布地のしるし（手前）
② ボタン穴かがり押えの赤いしるし
③ 上糸

お願い

・押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ボタン穴が正確な大きさにぬえません。



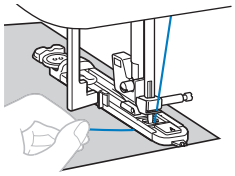
6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。



ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



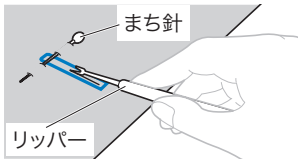
▶ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

8 針と押えを上げて、布地を取り出し、糸を切ります。

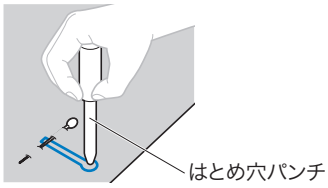
9 ボタン穴かがりレバーを元に戻します。

10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの片方の内側にまち針を刺します。

11 リッパーをまち針の方へ向けて、ボタン穴を切り開きます。



はとめ穴の場合は、ボタン穴の丸い側にはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



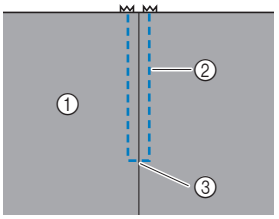
＊ はとめ穴パンチを使用するときは、布地に穴をあける前に布地の下に厚紙や保護シートを敷いてください。

⚠ 注意

・リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。
・リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。

ファスナーつけ

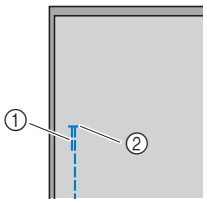
つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



① 表
② ステッチ
③ あき止まり

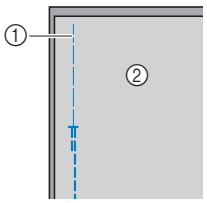
1 ジグザグ押え＜Ｊ＞を取り付けます。

2 あき止まりから下側に地ぬいをします。
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。



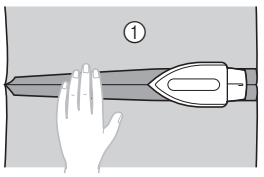
① 返しぬい
② あき止まり

3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



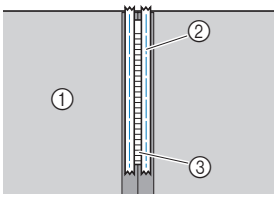
① しつけ
② 裏

4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



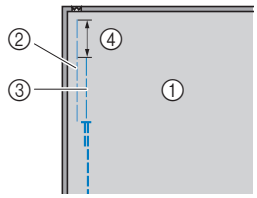
① 裏

5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



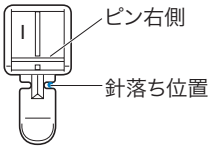
① 裏
② しつけ
③ ファスナー

6 でき上がり線のしつけを布端から 5cm の位置までほどきます。



① 裏
② ファスナーのしつけ
③ でき上がり線のしつけ
④ 5 cm

7 片押え< I >のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



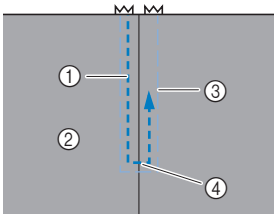
8 直線模様（ 中基線）を選択します。

＊ お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

⚠ 注 意

・ 片押え< I >を使用するときは、必ず直線模様（中基線）を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 布地の表からステッチをかけます。



① ステッチ
② 表
③ しつけ
④ あき止まり

⚠ 注 意

・ ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

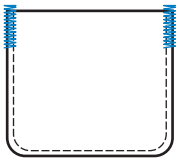
お知らせ

・ 押えがファスナーのスライダーに当たる場合は、針が下がった（布地に刺さった）状態にして押えを上げます。押えに当たらないようスライダーを動かしてから、押えを下げ続きをぬいます。

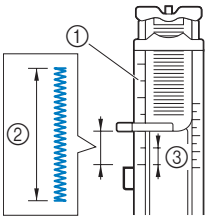
10 しつけをほどきます。

かんどめ

かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するときに使用します。
ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



1 かんどめの長さを決めます。
ボタン穴かがり押え< A >の押えスケールの目盛り（1 目盛り 5mm）を合わせて、できあがりの長さを決めます。



① 押えスケール
② かんどめのでき上がり寸法
③ 5 mm

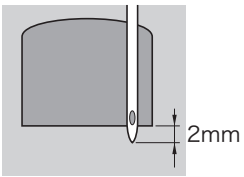
・ 最大約 28mm のかんどめができます。

2 ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。
ボタン穴かがり押え< A >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

3 模様を選択します。

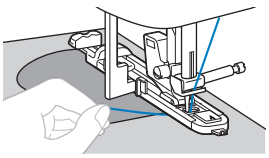
＊ お使いのミシン本体の模様表をご確認の上、該当する模様番号を選択してください。

4 ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えレバーを下げます。



5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

6 左手で上糸の端を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



7 ぬい終わったら押えレバーを上げ、布地を取り出してから、糸を切ります。

8 ボタン穴かがりレバーを上げて、元に戻します。

ブラザーのサポートサイトのご案内（製品マニュアルのダウンロードについて）

ブラザーのサポートサイトでは、縫製のコツや別売品を使用するぬい方、模様に関する詳細など、製品に関する様々な情報を紹介しています。

サポートサイトの製品マニュアルダウンロードページ
http://s.brother/cmkah/

「ぬい方ガイド」と「模様早見表」よりご参照いただけます。上記サイトからは、本取扱説明書をダウンロードすることもできます。

お手入れのしかた

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。
- 温度が著しく高くなる、または著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気が多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所

お願い
- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

本体表面のお手入れ

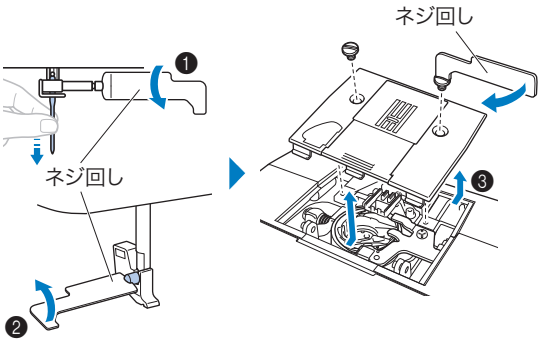
注意
- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

かまの掃除

かまにはほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。

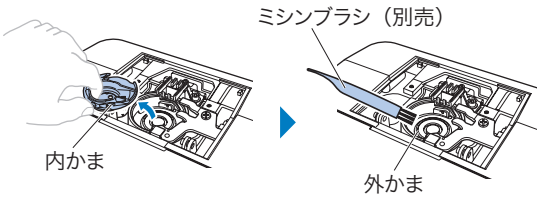
注意
- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

1 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
2 針を上げ、押えを取り外します。
3 針（❶）と押えホルダー（❷）を取り外します。その後、針板のネジを外し、針板を取り外します（❸）。



お願い
- 取り外したネジがミシン内部に落ちないようご注意ください。

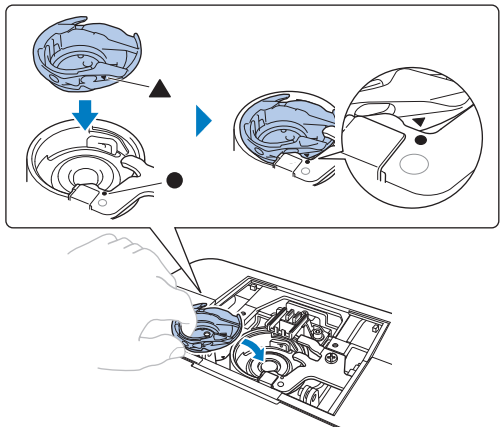
4 内かまを取り出し、外かま周辺のほこりを取り除きます。



＊ 内かまに油をささないでください。

お願い
- 缶入り圧縮空気は使用しないでください。

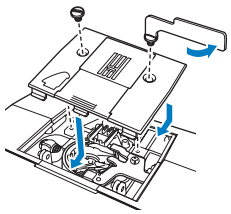
5 ▲印と●印が合うように、内かまを取り付けます。



⚠ 注意

- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求め下さい。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

6 針板を元に戻し、ネジをしめます。



困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目およびブラザーのサポートサイト（http://s.brother/cpkah/）の「よくあるご質問（Q&A）」を確認してください。

それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

よくあるご相談

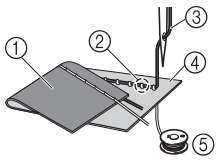
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

症状	参照ページ
上糸がつる	P.23
布裏で糸がからまる	P.23
糸調子が合わない	P.24
布がミシンに入り込んでとれなくなった	P.24
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	P.26

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている。（下図参照）
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸

■ 原因

下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っ張られてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

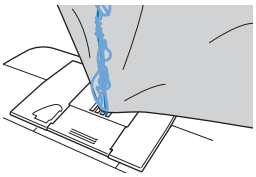
■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットします。（P.9 参照）

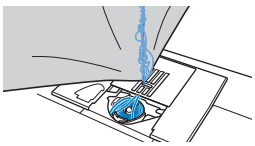
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまい、ガタガタと音がします。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットし直します。

1 からんだ糸を取ります。取れない場合は、はさみで糸を切ります。

＊「かまの掃除」（P.22）を参照してください。

2 上糸をミシンから取り外します。

3 「上糸を通す」（P.10）の手順に従って、正しく上糸をセットします。

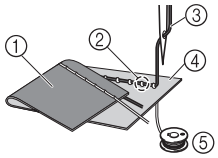
＊ ボビンを内かまから取り出した場合は、「下糸を巻く／セットする」（P.7）を参照して、正しくボビンをセットしてください。

糸調子が合わない

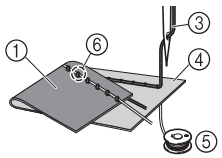
■ こんなとき

症状 1. 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。（下図参照）
症状 2. 布地の上側で上糸が直線になる。
症状 3. 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。（下図参照）
症状 4. 布地の下側で下糸が直線になる。
症状 5. 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状 1



□ 症状 3



① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸
⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1
糸が正しくミシンにセットされていない。

<症状 1、2 に該当する場合>
下糸が正しくセットされていません。
糸調子ダイヤルを「4」にしてから、「下糸を巻く／セットする」（P.7）を参照してセットし直します。

<症状 3 ～ 5 に該当する場合>
上糸が正しく通っていません。
糸調子ダイヤルを「4」にしてから、「上糸を通す」（P.10）を参照して上糸をかけ直します。

□ 原因 2
布地に合った糸や針を使用していない。
ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。
布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

＊「布地と糸の種類による針の使い分け」（P.12）の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

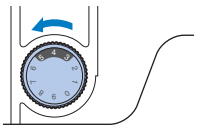
□ 原因 3
上糸調子の設定値が適正でない。
適正な糸調子になるように調節します。
「糸調子を調節する」（P.16）を参照してください。
使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

＊ 実際に使用する布地のはぎれで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

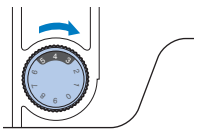
お願い

・ 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

・ 布地の上側に下糸が見える場合
糸調子ダイヤルを左に回し、糸調子を弱くします。



・ 布地の下側に上糸が見える場合
糸調子ダイヤルを右に回し、糸調子を強くします。



布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。
操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

1 直ちにミシンを停止させます。

2 電源を切ります。

3 針を取り外します。
針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側（時計回り）に回して針を布から外してから、針を取り外してください。

＊「針の交換」（P.13）を参照してください。

4 押えと押えホルダーを取り外します。
押えに糸がからみついている場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。押えが破損するおそれがあります。

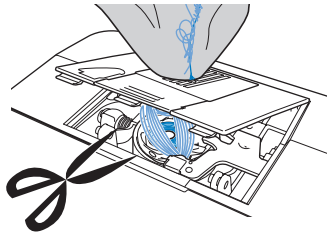
＊「押えを交換する」（P.14）を参照してください。

5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。
ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。

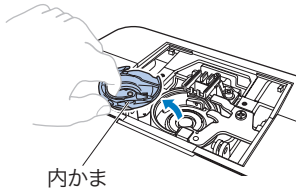
6 針板を外します。

＊「かまの掃除」（P.22）を参照してください。

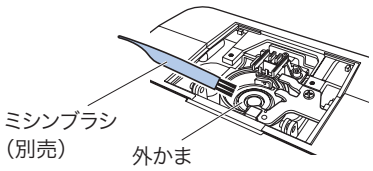
7 からんだ糸を切ってボビンを取り出します。



8 内かまを取り出します。
内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



9 ミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



・ ここまでの手順で布を取り外せた場合
➡ 手順 **11** に進む。
・ ここまでの手順で布を取り外せない場合
➡ 手順 **10** に進む。

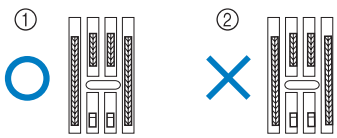
お願い
・ 缶入り圧縮空気は使用しないでください。

10 針板から布と糸を取り外します。
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

11 「かまの掃除」の手順 **5**（P.23）のように、内かまを取り付けます。

12 「かまの掃除」の手順 **6**（P.23）のように、針板を取り付けます。

13 プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



① 正しい送り歯の位置
② 正しくない送り歯の位置

14 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。
針が曲がっているなど、状態が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。
＊「正しい針の見分け方」（P.13）および「針の交換」（P.13）を参照してください。

お知らせ
・ 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをおすすめします。

■ ミシンの動作を確認する

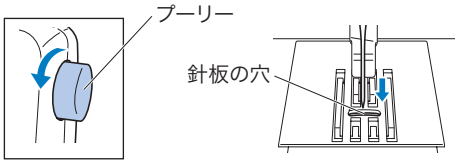
針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

1 電源を入れます。

2 直線模様（中基線）を選択します。

お願い
・ 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

3 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。
針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、「布をミシンから取り外す」の手順 **13**（P.25）からやり直してください。



4 ジグザグ模様を選択します。このとき、ぬい目の長さとジグザグ振り幅を最大にしてください。
＊ 設定の変更については、「ぬい目の長さ／振り幅を調節する」（P.15）を参照してください。

5 プーリーをゆっくりと手前（時計と反対回り）に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。
針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

6 電源を切ってから、押えホルダー、押え、ボビンをセットします。
傷がついたまたは破損した押えを使用しないでください。針折れや縫製不良の原因となります。
＊「下糸を巻く／セットする」（P.7）および「押えを交換する」（P.14）を参照してください。

7 上糸をかけ直します。

＊ 上糸のかけ方については、「上糸を通す」(P.10)を参照してください。

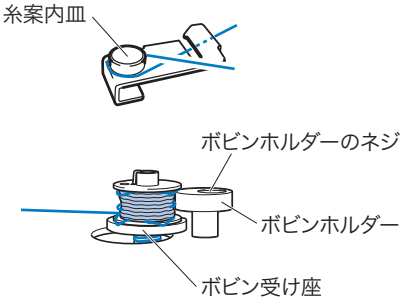
8 普通地で試しぬいをします。

お願い

・ 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方や使用している布地を確認してください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

糸が糸案内皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。



注意

・ ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。
(カッター付きモデルの場合)
ボビン受け座を外すと、カッターでけがをするおそれがあります。

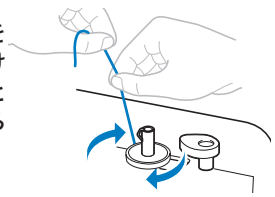
・ ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。

1 下糸巻きを停止します。

2 糸案内側で、はさみで糸を切ります。

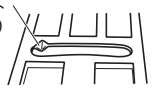
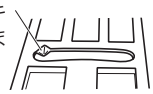
3 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。

4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン受け座近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



こんなときは

参照ページが「※」のときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室(ミシン 119 番)」にご相談ください。

症状、原因 (対処)	ページ
ミシンが動かない	
電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	6
電源スイッチが入っていない。	6
下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	8
フットコントローラーが正しく使われていない。	6
針が折れる	
針の取り付け方がまちがっている。	13
針のとめネジがゆるんでいる。	13
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	13
布地に合った針・糸を使用していない。	12
模様に合った押えを使用していない。	17
上糸調子が特に強すぎる。	17
布地を引っ張ったり押し込んだりしている。布地がまっすぐに送られていない。 ▶布地は軽く押さえます。	-
針板の穴の周辺にキズがある。 ▶針板を交換してください。 この部分はキズではありません。	22、※
押えの穴の周辺にキズがある。 ▶押えを交換してください。	13、※
内かまにキズがある。 ▶内かまを交換してください。	22、※
本機純正のボビンを使用していない。	7
上糸が切れる	
上糸の通し方がまちがっている (糸こまが正しくセットされていない、糸が針棒糸かけから外れているなど)。	10
糸に結び目やからまりがある。 ▶結び目やからまりを取り除きます。	-
使用している糸に合った針を使用していない。	12
上糸調子が特に強すぎる。	17
内かまなどで糸がからまっている。	24
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	13
針の取り付け方がまちがっている。	13
針板の穴の周辺にキズがある。 ▶針板を交換してください。 この部分はキズではありません。	22、※
押えの穴の周辺にキズがある。 ▶押えを交換してください。	13、※

症状、原因（対処）	ページ
内かまにキズがある。 ▶内かまを交換してください。	22、※
本機純正のボビンを使用していない。	7
下糸がからまる／下糸が切れる	
下糸が正しく巻かれていない。	7
ボビンにキズがある、または回転がなめらかでない。	7
糸がからまっている。	23
本機純正のボビンを使用していない。	7
下糸セットのしかたがまちがっている。	9
糸調子が合っていない	
上糸の通し方がまちがっている。	10
下糸が正しく巻かれていない。	7
布地に合った針・糸を使用していない。	12
押えの取り付けがまちがっている。	14
押えホルダーの取り付けがまちがっている。	14
糸調子が合っていない。	16
本機純正のボビンを使用していない。	7
下糸セットのしかたがまちがっている。	9
布地にしわがよる	
上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	7、10
糸こまが正しくセットされていない。	7
布地に合った針・糸を使用していない。	12
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	13
薄い布地に対してぬい目があらすぎる。 ▶布地に接着芯を貼ってぬいます。	-
糸調子が合っていない。	16
ぬい目が飛ぶ	
上糸の通し方がまちがっている。	10
布地に合った針・糸を使用していない。	12
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	13
針の取り付け方がまちがっている。	13
針板の下や内かまにほこりなどがたまっている。	22
布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう	
上糸の通し方がまちがっている。	10
布地に合った針・糸を使用していない。	12
ぬい音が高い／ガタガタと音がする	
送り歯や内かまにほこりがたまっている。	22
上糸の通し方がまちがっている。	10
内かまにキズがある。 ▶内かまを交換してください。	22、※
本機純正のボビンを使用していない。	7
糸通しが使えない	
針が上に上がっていない。	10
針の取り付け方がまちがっている。	13
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	13

症状、原因（対処）	ページ
上糸の通し方がまちがっている。	10
フックが曲がっていて針穴に通っていない。	※
糸通しレバーが動かない、または元の位置に戻らない。	※
9 番の針を使用している。 ▶糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	10
模様が正しくぬえない	
模様に合った押えを使用していない。	17
糸調子が合っていない。	16
内かまなどで糸がからまっている。	24
布地を送らない	
送り歯が下がっている。 ▶ドロップレバーを の位置に切り替えます。	4
ぬい目が細かすぎる。	15
布地に合った針・糸を使用していない。	12
内かまなどで糸がからまっている。	24
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸がからまる	
糸案内皿に糸が正しく通っていない。 ▶からまった糸をほどき、下糸巻きをし直します。	7、26
下糸を引き出すことができない	
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	13
下糸セットのしかたがまちがっている。	9
手もとライトが点灯しない	
手もとライトが故障している。	※
布地が逆方向に送られる	
送り機構が故障した。	※
針が針板に当たる	
針のとめネジがゆるんでいる。	13
針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	13
布がミシンに入り込んでとれない	
糸が針板の下でからんでいる。	24
折れた針がミシンの中に落ちた	
▶ ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻し、新しい針を取り付けます。電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか、新しい針が針板の穴の中央を通るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	22
プーリーを回したときに重い	
糸がかまなどにからんでいる。	24
飾り模様がくずれる	
模様に合った押えを使用していない。	14

エラーメッセージ

No.	原因	対処方法
E1	押えが上がった状態で、(スタート／ストップスイッチ）を押したとき（またはフットコントローラーを踏み込んだとき）や、(返しぬいスイッチ）を押したときに表示されます。	押えを下げてから操作してください。
E2	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり、またはかんどめ以外の模様を選択して、(スタート／ストップスイッチ）を押したとき（またはフットコントローラーを踏み込んだとき）に表示されます。	ボタン穴かがりレバーを上げてから操作してください。
E3	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがり、またはかんどめの模様を選択して、(スタート／ストップスイッチ）を押したとき（またはフットコントローラーを踏み込んだとき）に表示されます。	ボタン穴かがりレバーを下げてから操作してください。
E4	下糸巻き軸を右に移動させているときに、(返しぬいスイッチ)、または(針上下スイッチ）を押したときに表示されます。	下糸巻き軸を左に移動させてから操作してください。
E5	フットコントローラーを取り付けた状態で、(スタート／ストップスイッチ）を押したときに表示されます。	フットコントローラーを外して、(スタート／ストップスイッチ）を操作してください。または、フットコントローラーをつけたまま足で操作してください。
E6	糸がらみなどで、モーターがロックしたときに表示されます。	からまった糸を取り除いてください。
F1 F9	ミシンが故障していることが考えられます。	お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にお問い合わせください。

電子音について

・ミシンを起動したとき、または正しい操作をしたとき
▶**「ピッ」と鳴ります。**

・設定を変更する際にミシンを起動したとき（P.6）
▶**「ピッピッ」と鳴ります。**

・誤った操作をしたとき
▶**「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。**

・糸がからむなどしてミシンがロックしたとき
▶**「ピッピッピッ・・・」と４秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。**必ず原因を確認して改善してから、再開してください。

仕様

項目	仕様
本体寸法	413 mm（幅）× 169 mm（奥行）× 310 mm（高さ）
製品質量	4.8Kg
ぬい速度	毎分 70 ～ 750 針
使用ミシン針	家庭用ミシン針（HA× 1）
定格電圧／消費電力	100V（50-60Hz）／ 43W
手もとライト	白色 LED
最大振り幅	7.0 mm
最大送り幅	5.0 mm

＊ 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

索引

い
糸案内皿……7、26
糸切り……10、16
糸たて棒……7、10
糸調子……16、24
糸調子ダイヤル……24
糸通し装置……4、10

う
ウォーキングフット……5、14
内かま……22
上糸を通す……10

え
液晶画面……6
エラーメッセージ……28

お
送り歯……4、25、27
押え……4、14
押えホルダー……4、14
押えレバー……4、8、14、15

か
返しぬい……16
かま……22

こ
困ったとき……23

し
下糸クイック……4、11
下糸巻き装置……4
自動返しぬい／止めぬい……7、16
主要部……4

す
スタート／ストップスイッチ……4
スピードコントロールレバー……4

せ
設定……6

そ
操作スイッチ……4
操作パネル……6

て
電源……6
電子音……7、28
てんびん……10

と
止めぬい……16
ドロップレバー……4

ぬ
ぬい目の長さ……15
ぬい目の長さ調節キー……6、15
布地と糸の種類による針の使い分け……12

は
針……13
針板……22、24
針板ふた……4
針上下スイッチ……4
針停止位置……6

ふ
付属品／別売品……5
フットコントローラー……6
フリーアーム……18
振り幅調節キー……6、15

ほ
補助テーブル……4
ボタン穴かがりレバー……4、20

も
模様選択キー……6、14
模様の振り幅……15

り
リッパー……20

製品に関する様々な情報（ソーイングガイド、模様一覧、サポート動画、
Q&A 等）は、http://s.brother/cpkah/ をご覧ください。

動画に関する情報は http://s.brother/cvkah/ をご覧ください。

Brother SupportCenter は、ブラザー製品のサポート情報（取扱説明ビデオやよくあるご質問など）を提供するモバイルアプリです。
Google Play™ または App Store からダウンロードしてください。

Google Play™

App Store

商標

App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。

Android、Google Play は、Google Inc. の商標です。
これらの商標の使用は、Google 使用許諾の対象となります。

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低８年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577　愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番）　Tel：050-3786-1134
050（ゼロ ゴー ゼロ）で始まる電話番号です。
Fax：052-824-3031
受付時間: 月曜日～金曜日　9：00～12：00　13：00～17：30
休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
- ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。
http://www.brother.co.jp/

ブラザーのサポートサイトでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。
http://s.brother/cpkah/

Brother SupportCenterは、ブラザー製品のサポート情報（取扱説明ビデオやよくあるご質問など）を提供するモバイルアプリです。
ダウンロードするにはGoogle Play™またはApp Storeにアクセスしてください。

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561

888-N50

D01F5W-001